

「税金」という名の襷

今年の七月、三年に一度行われる参議院選挙が行われた。私も家族と一緒に開票結果の速報をテレビで見っていた。真剣に速報を見てみると、多くの候補者が税金について言及していることに気がついた。少し前までの私は「税金は大人が払うもの」というイメージがあり、税金について興味を持つことは無かった。けれど、自分も四年後に成人することを考えるとそろそろ税金について考えるべきだと感じた。参議院選挙は私が税金について考える大きなきっかけとなった。

詳しく調べてみると、私たちの身の周りは税金によって支えられているものばかりだということに気づかされた。例えば、整備された道路や信号、学校の机や椅子、無償で配布される教科書、無料で利用できる図書館など数え出したらきりがない。もし税金という仕組みが無ければ、これほど恵まれた生活を送れなくなってしまうのかもしれない。

もう少し深く考えてみよう。急な病気や怪我が起きたときに駆けつけてくれる救急車。少ない自己負担で受けられる高度な医療技術。自然災害が起きたときに救助活動にあたる自衛隊。これらは、誰か一人の力だけでは到底できないことだ。しかし、税金という仕組みがあれば一人ではできないこともできる。税金は、誰かに差し伸べてもらう希望の光となり、時には誰かを助けるロープにもなる、助け合いの精神が詰まった仕組みなのだ。このように税金について知ること、税金を下げてほしいと易々と願うことは無くなるだろう。

日本では少子高齢化が進み、今後若い世代の負担が増えると予測される為、税金を納めることを不満に思う人が出てくるだろう。しかし、このままでは高齢者の生活はさらに厳しくなってしまう。いつか誰もが高齢者になり、税金に助けられる立場になるだろう。そう考えれば、今の自分が税金を納めることは「将来の自分を助ける為の投資」とも言えるだろう。改めて税金について学び、理解を深めることの大切さを身に染みて感じた。

私はあと四年で成人し、選挙に参加できるようになる。若い世代の投票率の低さが問題になっているというニュースを見て大きな衝撃を受けた。自分で真剣に候補者を選んで投票しないと、自分が納める税金を無駄にすることになってしまう。一人の意志だけでは国は動かせないが、多くの人の意志が集まれば国は動かせる。成人したら自分が社会の一員であることを自覚し、積極的に選挙に参加する。そうした主体的な関わりが大事だと思う。

私たちには先人たちが創り上げた「税金」という助け合いの仕組みを後世へ受け継ぐ使命がある。他人事ではなく、自分事として捉えて自分が社会の一員であることを自覚し、みんなで税金への理解を深めていきたい。そして、後世の暮らしをより良くしていく為に税金という名の襷を繋いでいきたい。